

Japanese Welfare Society in Australia



# Hope Connection Newsletter No.40

ホープコネクションニュースレター第40号 発行日2007年1月1日 発行者 Hope Connection Inc.  
住所/郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話 (電話相談兼用) 0408-574-824  
\* Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です \*  
ホームページ : <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail : [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au)

## ホープコネクションからのご挨拶

新たな年がまたやってまいりました。皆さまはどのような新年をお迎えでしょうか。今年こそはあんなこと、こんなこと、と果たせない計画ばかりを立てて、さてどこまでできたものかと年末に振り返る、、そんなことをしばしば繰り返しつつ、健康でいられたからまずはよかったと自己満足に落ち着く年が多くなりました。世界を見渡せば、飢餓や紛争で理不尽な死を遂げる人々がまだまだ後を絶ちません。世界一住みやすいといわれるメルボルンで暮らす私たちは、条件的にはなんと幸せなのかと思います。であればこそ、貧困、紛争がなくなるような働きかけ、活動を微力なりともしたいなと思います。

さて、昨年は日豪交流年の行事が続き、私たち日本人コミュニティも活発に各種イベントを主催したり、参加したりの意味ある年だったと思います。ホープコネクションはちょうど創立10周年に当たり、昨年10月6日、多くの方のご参加を得て10周年記念フォーラムを開催しました。このフォーラムは、おかげさまで日豪交流年認定事業にも登録され、さらに草の根交流事業として助成を受けることもできました。日ごろは電話相談など目立たないところで活動している私たちですが、この機会に大いに私たちの活動も知っていただきたいと多彩なプログラムを組みました。

フォーラムでは、設立当初よりアドバイスをいただいたり、一時はオフィススペースも提供して下さったジョージ・レカーキスさん(現ヴィクトリア州多文化委員会の委員長)にスピーチをしていただきました(スピーチの全訳文が本号に掲載されています)。日本人コミュニティのニーズに合った適切なサポートを提供していると過分な賞賛をいただきました。

また、ラトロブ大学で心理学を教えておられる嘉志摩江身子さんには「日本人の海外適応」と題して講演をしていただき

ました。happiness をキーワードに、オーストラリアで暮らす日本人移民の、満足度はどうかなど興味深いお話でした。講演の抄録も本号で紹介されていますので、ぜひお読みになってください。

また、後半のフォーラムでは、10年間の活動、ホープコネクションが数年かけて行った留学生調査、JCV「実りの会」の活動についてそれぞれ報告発表をさせていただきました。設立当初は日本人向けの情報紙等も現在ほど種類もなく、今のようにインターネットはありませんでしたので、電話相談の件数もかなり多く、その内容も極めて多様でした。現在メール相談も受け付けており、数は多くないものの深刻な相談もあることが報告されました。留学生調査も日本人留学生が問題を抱えている状況が伝わり、実態を調べてホープとして何かサポートできないだろうかというきっかけで行われたものです。調査結果は、ホームページのニュースレターバックナンバーにアクセスすれば読めます(No. 33-37)。「実りの会」は特に老人介護などに力を入れ、ボランティア養成に活発に取り組んでいることなどが紹介されました。

最後の30分ほどは参加して下さった方々とリフレッシュメントをいただきながら交流しました。この場でも私たちへの期待が寄せられました。10年間途切れることなく続いた活動は、日本人コミュニティにとってはいくらかの貢献にもなったかと思えますし、お互いのネットワーク作りにも役立ってきました。

10年の歴史を顧みますと意義ある活動ができたことを素直に喜びたいと思います。そして次の10年に向けて新たな活動を展開していきたいと、会員一同気持ちを新たにしています。皆さまのご理解、ご協力を今後ともよろしく願います。

## 10周年フォーラム・スピーチ

George Lekakis (ヴィクトリア州多文化委員会、委員長)

ホープコネクション会長デーヴィス洋子さん、副会長中村ひで子さん、ラトロブ大学心理学科講師、嘉志摩さん、在メルボルン日本国

総領事館代表そして会場の皆様、ここに、ホープコネクションの10

周年を記念する特別なフォーラムにお招きいただきスピーチをさせていただきますことは、私にとりたいへん名誉なことです。

ヴィクトリア州多文化委員会の委員長として当然のことではありませんが、今日はヴィクトリアの文化的調和及び言語的多様性について、さらにまたホープコネクションが私たちの日本人コミュニティに対して、そのニーズに応じた福祉サービスを提供しているように、このような団体が果たしている役割についてお話をさせていただきます。短いスピーチですが、お話しさせていただくことは大切なことであると思います。

この10年間、私はあなた方が、私たちが幸運にも享受しているダイナミックで多文化なオーストラリアのライフスタイルを形成、強化する手助けをされてきた様子を見てきました。この豊かな文化間の経験や考え方の交流こそ、これがなければ得られなかったかもしれない、世界に開かれた窓をわたくしたちに与えてくれ、社会のそして個人個人の地平を広げてくれるものです。

皆様もご存知のように、私たちがこの歴史的な現象を指している言葉が「多文化主義」と表現されます。ヴィクトリア州はこのことをいち早く認識し、コミュニティの文化・言語・宗教の多様性についてのニーズに対応するプログラムに対して360万ドルの補助金を私の委員会に交付しています。これを基金として、ホープコネクションを含む1500以上の様々な民族・宗教のコミュニティ団体を私の委員会が直接援助しています。

ヴィクトリアが様々なバックグラウンドや信仰を持って世界各地から150年余にわたってやって来た人達によって構成されていることはよく知られています。この地で新しい生活を築いていく時、人々はコミュニティを形成する基盤として民主主義、寛容、機会平等を共通の大義としました。

注目すべきことに、オーストラリアが一年に受け入れる人道的難民の三分の一はヴィクトリア州に住んでいます。私たちの素晴らしく多様化した有権者たちに、タイムリーで適切な支援を提供することは当然と言えます。

私たちは誰でもヴィクトリアに来てくれることを歓迎します。なぜなら、誰でも何か貢献できるものを持っているからです。そして今日提供できるのは、230以上の国々から集まり、180以上の言語を話し、116以上の宗教を信仰し、その上でおそらくは世界中で最も多様でありながらまとまって平和的な社会に生きているというヴィクトリア州における人々の経験です。

多くのヴィクトリアの人々は多文化主義を支持しています。なぜなら、私たちは、オーストラリアの先住民を除けば、みな移民、あるいは移民の子孫たち故、このことをよく認知しています。英国人であれ、インド人であれ、ソマリア人であれ、ジャワ人であれ、日本人であれ、私たちの多様な祖先は忘れられることはなく、私たちがそれを共有しながらひとつの社会として成長していく時、私たちのアイデンティティの重要な要素として残って行きます。このような認識は私たちにもっと開かれた態度と理解を可能にし、大きな社会的経済的利益をもたらします。

### ヴィクトリアの日本人

2001年の国勢調査によりますと、ヴィクトリアには4,682人の日本生まれの人々が住んでいます。(全オーストラリアの18.4%)さらには、6,000人以上の人が自分は日本人の子孫であると考えています。

経済界では、140以上の日系企業がヴィクトリアで活動しています。

メルボルンでは日本人移民たちがヴィクトリア日本人クラブを1982年に設立しました。同クラブは、毎年恒例の文化的な催しを開催し、これはヴィクトリアの日系コミュニティ最大のイベントになっています。これは地域社会でも人気の催し物になっています。毎年、大勢の様々な人々が日本の伝統的な芸能、文化を見るために集まってきます。

そして、もちろん、ホープコネクションがあります。この10年の多彩な活動は、ヴィクトリア在住の日本人のための相談事業、対面の支援活動、老人福祉、文化面での支援、音楽や言語その他の社交活動に関する定期的なワークショップなどに亘っています。

ホープコネクションは、常に日本人コミュニティのための、特に社会の中で孤立しがちで特別な支援が必要な高齢者に対しての情報の提供に取り組み、固有の文化的環境を提供することに努めてきました。本日の10周年記念フォーラムは、立派な一里塚です。

一般的に申し上げて、多文化主義の結果、コミュニティの中での日本に対する興味が増えていると言ってもよいと思います。例えば、ここヴィクトリアでは22,000人以上のセカンダリースクールの生徒たちが日本語の授業を受けています。それに今ではどのショッピングセンターにもスリパーがあります。

こういった文化の共有と形成はヴィクトリア州政府とヴィクトリア多文化委員会が奨励してきたものです。多文化主義が広く受容されることが、今私たちが享受しているより開かれた豊かな、そしておもしろい社会を生みだすのです。

しかし、現在比較的成功しているコミュニティ間の調和的なあり方は、単に運良くできあがったというものではありません。これは、適切な政策とこの地の多様なコミュニティの良識が融合することで、成し遂げられました。幸いなことに、1980年代以降、ヴィクトリア政府は両陣営とも様々な手段で多文化主義を支持し、守り、後援してきました。

ヴィクトリア州の文化や言語、宗教の多様性が私たちの社会にとって最大の長所のひとつだと認めているからです。その理由は至って簡単であります。私たちは、すべての人とすべてのコミュニティの権利を、その人種や言語、信仰に拘わらず承認するものだからです。

近所付き合いの中で、地域の学校で、ショッピングセンターで、職場で、私たちの文化的言語的多様性が日常レベルでうまく発揮されることが帰属感を生み出し、さらには、新しくやって来た移民たちからも既に定着している移民のグループからもそれに賛同する気運を引き出しています。

言い方を変えてみれば、多文化主義はよりよい公平な社会を作るための手段なのです。それは私たちのガイドラインです。しかし、これは偏見というものがないという意味ではありません。完璧な社会であると宣言するものでもありません。それでもなお、私たちはコミュニティとして力を合わせて、国内的にも国際的にも指標となる多文化政策を作り上げることに成功しました。この成功は、歴代の政府が、包括的な政策はコミュニティ全体としてのニーズに必ずしも対応していないということに気付いたことから始まりました。政府は人々の十分な社会参加を妨げる障壁となるものを取り除くような目標を定めた政策が必要であることに気付きました。このことは、誰でもあれどこから来た人であれ、人々の帰属感を高めるものです。それは、私たちの居場所とアイデンティティと希望を強めるものです。

こうした意味で、ホープコネクションは、その名が示す通り、重要な役割を果たし続けていこうと胸を張って申し上げます。この10年間、ボランティアの皆さんとその社会福祉における働きは、特に高齢者福祉の面において、ヴィクトリアの多文化的特質の最も素晴らしい面を体現するものです。

まさに、ホープコネクションは、私の委員会が最も大切であると考えている、単に人々が共存するだけでなく人々の間のつながりを育んでいくことという目的に叶うものなのです。

## 結び

連邦政府が難民や亡命を求める人々、さらには英語力が十分ではない定住移民たちを排斥し汚名を着せようとしている中、ヴィクトリア州は多文化主義を奉じ、よるこんで新たにやってくる人々を受け入れ続けています。これをしなければ、オーストラリア人とは言えないでしょう。

おしまいに、私は多文化主義が根本的に民主的な概念であることをもう一度強調しておきます。それ故に、ヴィクトリア州政府と多文化委員会は、ヴィクトリアのすべての人々がそれぞれに文化的・言語的に多様なコミュニティという特別なアイデンティティーを保っていけるよう積極的に支援します。

ホープコネクションのような団体の参加を得て、私たちはこのことを実行し続けます。これはイデオロギーでもなければ、政治的野心でもなく、社会的実験でもありません。行うべき正しいことなのです。

民族や宗教の違いによる差別を恐れることなく文化的な出自の違いを享受、共有、支援できるように、すべてのヴィクトリアの人々の権利を擁護することが、私たちの民主主義を強固にするのです。

10周年をお祝いし、今日のフォーラムの成功をお祈りします。

ありがとうございました。

(翻訳・編集：ホープコネクション・ニュースレター編集部)

## 10周年フォーラム記念講演： 日本人の海外適応 嘉志摩江身子 (ラトローブ大学、心理学科講師)

適応 (adjustment) とは、個人が新しい環境やチャレンジに直面したときに状況に応じて変化していく、ということです。異文化適応は異文化に触れたことから始まる個人の変化であり、文化の違いという要素が加わるので少し複雑なものになりますが、個人が問題に対処していく過程であるという点で、異文化間であれ同文化間であれ、適応過程には共通点があると思われます。最近の研究では、ライフ・サティスファクションまたは人生満足度 (自分がどれくらいうまく適応できていると感じているのか) が異文化適応に深く関わっていることが分かって来ました。

イリノイ大学の Ed Diener 教授等の研究によると、人生満足度には国際差があり、平均的に人々の幸せ度が高い国と低い国が認められます。もちろんその国の経済的な豊かさというのが平均的人生満足度のひとつのパラメータになります。豊かな国では問題解決を可能にするリソースが大きいからです。しかし面白いことに、経済力だけから平均的ライフ・サティスファクションを予測することはできません。たとえば日本人ですが、日本は経済的には平均より豊かな国ですが、同じくらい豊かな国と比較した場合、満足度レベルは下まわっています。この傾向は東ヨーロッパの国々、例えばロシア、ポーランドなどとも似ています。経済差を考慮に入れてもなぜまだ平均的人生満足度に違いが残るのかに関してはいくつかの学説がありますが、まだ明確な理由はわかっていません。

これが異文化適応とどう関わってくるかですが、実は最近、1993年から1995年にかけてオーストラリアに来た約5千人、50カ国からの移住者の文化適応を調べた移民局のデータを分析させていただく機会がありました。結果は予想したように、オーストラリアでの生活への満足度が出生国により多少違うことがわかりました。オーストラリアより豊かな国から来た人、移住する以前のトラウマ的な経験、英語でのコミュニケーションの難しさを感じている人々などは、そう

でない人と比べて、オーストラリアでの生活満足度が低い傾向がありました。また、文化差の影響も見られました。つまり、オーストラリアと出生国との価値観に関する文化差が大きいほど満足度が低い訳です。さらに、人生満足度に国際差があるということを前に挙げましたが、実は出生国の平均的人生満足度がオーストラリアという新しい環境に対する満足度と無関係ではないことがわかりました。つまり、満足度レベルが平均的にたかい国から来た人は新しい環境に対しても興味深く受け止め、満足しがちなのが、人生満足度レベルが平均的にひくい国から来た人々は、新しい文化環境にも不満を抱きやすい、といった具合です。

さて、では何が人生満足度を高めるのでしょうか。答えは、私たち一人一人にとって多少異なると思いますが、文化心理学の国際研究によると、オーストラリアなどの個人主義の国では、一般的に自己に満足している人は幸せ度が高いと言われます。つまり個人のポジティブな経験が人生を幸せにするのです。しかし、日本人をはじめとする多くのアジア人は、どの位自己に満足しているかと全体的な人生満足度がそれほど関係せず、むしろ他人との関わりによって自分の人生の満足度を測っていく傾向があるようです。といっても、これは自他を比較して優位だった場合に得る単純な満足感ではなく、他人と関わりをもち、コミュニケーションを通し相手との共感を得る満足感、なども含まれると思われます。特に家族や身近な人との密度のあるコミュニケーション、これは現在の日本人に欠けていることのひとつなのではないでしょうか。

オーストラリアに移住してきた私たちが上手に異文化適応していくためには、まず自分自身の満足度を高めていくこと、そのためには、家族・友人などともっと会話を楽しむことが非常に大切なポイントだと言えるでしょう。

## JCV 実りの会からの新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。JCV 実りの会は、日本人コミュニティの将来の高齢化に向けて、ネットワークづくりのための勉強会を続けています。昨年11月に聖路加国際病院理事長である日野原重明先生をメルボルンにお招きし、「健康」について「人生」についてのお話をフェデレーションスクエアBMW エッジでお伺いしました。「一人ひとりに与えられた健康をより健全に保ち、充実した人生が送れるように」とライフプランニングセンターの理事長でもある先生の言葉を頂きまして、今年の実りの会の目標は、

- 1) 一人ひとりが「健康」についての理解を深めていく事。
- 2) 生活習慣の改善によって「自分の健康は自分で守る」事ができるように、健康行動が実践できるようにしていくこと。
- 3) 成長、発達、老化の過程を通しての全生涯にわたり、Quality of Life が豊かに保たれるように援助していく事。

(日野原重明：「私のすすめる健康の秘儀」より)

これからも一人ひとりの健康状態を知っていく事から始め、実践的な健康法などを会を通じて皆様と学んでいきたいと思っております。今年もよろしくお祈りいたします。

会場：クラブルーム (Ross House) Ground Floor, 247 Flinders Lane, Melbourne

連絡先：9397-8421 / Email: minorinokai@jcv.net.au

## ホープコネクションからのお知らせ

### ホープコネクションカルチャースクール 『 Crime Stoppers をご存知ですか? 』

今回のカルチャースクールは、Victoria Police の Crime Stoppers Multilingual Project からの講師をお招きしています。このプロジェクトは2005年に、ヴィクトリア警察のニクソン長官とヴィクトリア多文化委員会のレカーキス委員長が協力して立ち上げたもので、non-English background の人々の Crime Stoppers に対する理解をふかめてもらうことを目的にしています。

より安全な地域社会を作り上げていくために、私たちに何ができるのか探してみたいと思います。

日本語通訳がついたセミナーです。ふるってご参加下さい。

日時：2007年3月24日(土) 午前10時30分～12時30分

場所：Ross House, 247 Flinders Lane Melbourne 3000

(Swanston St. と Elizabeth St. の間です。Flinders Station から徒歩2分)

お申し込み・お問い合わせ：0408-574-824 日本語電話相談(月～金10時～15時)

または、E-mail: hopec@optushome.com.au まで

チャイルドケアをご希望の方は申し込みの際にお申し出下さい。

### ホープコネクション日本語電話相談のご案内

ホープコネクションでは、96年8月より日本語での電話相談を行っています。生活の中での困りごとのある方、相談相手のない方、悩み事を誰かに聴いてもらいたい方、お電話をいただければ、訓練を受けたボランティアの相談員が一緒に考えます。内容によっては専門家にご紹介もいたします。さらに現在ではマイグランドリソースセンター(移民のための窓口となる公共団体)をはじめとする、オーストラリアのサービス機関とも協力、連携を深め、ネットワークを広げています。電話は匿名で構いません。秘密は厳守致します。(相談は無料ですが、携帯電話を使用しているため、時間単位の通話料金がかかります。)

**電話番号：0408-574-824**

**受付時間：月～金曜日 午前10時～午後3時まで**

年末年始(12月23日～1月7日)、電話相談は休止させていただきます。あしからずご了承下さい。

**Special Thanks to** – 庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、South Central Region Migrant Resource Centre、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victoria Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカリ出版、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michal Morris、洋子マーフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良謙、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美、村越庸子、Jennie Rice、City of Stonnington、City of Port Phillip、Kiyomi Campbell、ZZZ、日豪プレス、Maria Palmares、嘉志摩江身子、2006日豪交流年、新保道滄(敬称略・順不同)